

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗(1階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和3年8月30日	評価結果市町村受理日	令和3年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2294201575-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にて、施設内での畑での野菜の収穫や、苗木の果物の収穫は、今年は、初めてさくらんぼができ、職員はイチゴに挑戦しました。防災にては、消防署からのアドバイスにてベンチを購入しました。地域の方々の休憩場所になり寄ってくださるようになりました。コロナ禍が落ち着いてきたら、利用者様と、地域の方々が交流の場になればと思っています。今年力を入れた事に対しては感染予防に力をいれました。ホワイトボードを購入し利用者様に今のこのコロナを理解して頂けるように工夫をしたり、各場所工夫を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に植えた果樹が7年という月日を経て育ち、サクランボや柿、石榴も実り、リンゴは来年は大きく実りそうに楽しみの一つになっており、本年度はプランターでの苺栽培にもチャレンジしています。管理者自ら入居情報のチラシを制作、地域包括支援センターとはコロナ禍であっても電話などでやりとりが継続され、一時預かりにも協力しています。眠れない人も「明日おいしいものつくると」と声をかけることで安眠できていて、用宗に住む職員がシラスを調達したり、管理者が「タルトマスターの資格取得後は利用者と一緒につくりたい」などとして、食への楽しみが豊富な事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が自分に出来る事を見つけて利用者に寄り添えるよう支援している。花壇などを綺麗にしたり防災にてベンチを外に設置する。今はコロナ禍の為交流ができていないが、今後地域の方々と交流の場が出来ていければと思う。	7つの理念が個人の年間目標に重なっていることから、その実践を通じて管理者は浸透を感じています。3ヶ月に1回は進捗度の確認をおこなうとともに、気になれば声をかけ、問題があれば個人面談としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	偶数月には理美容など行っており、利用者様に応じ歯科往診など行っている。外部の受診など行い、現状地域との交流をしている。	コロナ禍ですが訪問理美容(毎月1回、1日で全員)のほか、家族の希望での訪問歯科も継続しています。職員出勤時には「頑張ってね」と顔見知りから声が入り、玄関のベンチでご近所さんが井戸端することも途絶えていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で現在行えていないが、運営推進会議意見交換にて理解をしていただいたり、一部の地域の方に理解して頂きそこから地域の方々に向けて現状行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在意見交換にての対応を行っている。そこから意見を参考にし、一つ一つ行っていく。現場で共有していく。	運営推進会議は1年程前から集まってはできなくなっています。2ヶ月毎の活動内容を管理者がまとめ、家族に配付のうえ、Q&Aをもらうことで密なやりとりにつなげ、家族の意向把握と苦言への改善としています。	運営推進会議のフォーマットに整合性があるよう見直すことと、現在家族中心となっている体制を調整していくことの2点を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、保健所など連絡をとり、密に取り組んでいる。	困りごとがあれば即日役所に相談して助言及び指導を得ており、また消毒薬やマスクも届き、常々感謝しています。丁度空室があったことで、事業所でも一時預かりを受け入れ、助けてもらうばかりでなく協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様に対しての声掛けの仕方などの抑制があった場合は注意している。必要に応じて拘束などにならないように環境(位置)を変更したり工夫している。	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」が本部で開催され、出席の管理者を通じて職員回覧にて共有しています。また入職したその日に主任が本件に係るレクチャーをおこなうことが定着しており、既存職員の研修2回も滞りなく実施できています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉・態度の暴力もあるので、声掛け、対応に中止している。毎月勉強会・職員会議にて意識を持つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在学ぶ機会をもてていない。管理者は個々の必要に応じケアマネと連携をとり活用できるように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在契約は全て施設長が行い、その時に説明をしている。その後ご家族様より不安・疑問などがあつた場合は、その都度再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様からの要望があつた場合はすぐに職員間で共有し行っている。統一できるように申し送りノートも活用している。	写真中心の「グループホームジョイ上足洗」が毎月家族に届けられています。家族とは運営推進会議を代替とする情報交換が成り立ち、「避難場所は決まったか」「大掃除は小分けでおこなったかどうか」といった具体的な意見が届いています。	運営推進会議が家族中心となっていることと「グループホームジョイ上足洗」が写真中心なことを是正し、家族には「グループホームジョイ上足洗」(または補足のツール)に文字が追加され、個別に1ヶ月の様子が届くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議にて、意見・提案を聞くようにしている。	主任が順次研修資料を揃えてきましたが、本年1月から職員が輪番で取組むようになっていきます。資料制作の大変さをこぼす職員もいますが、ハードルを超えることで他者の苦労も知り、チームワークにつながっています。	ユニット別の取組みはあって然るべきですが、居室担当者が2階にいないことは職員間でメリット、デメリットを検討することで、利用者や家族にとってサービスに差が生じないことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人に担当や、役割をつけ向上心を持ちながら責任を持ち仕事に取り組むように施設長・主任で話し合い現場に促しその都度対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者様のADLに応じ、その都度1人1人実践しながら職員に伝えている。場合によっては、往診ドクター・訪問看護からのアドバイスを聞き、現場で統一できるように取り組んで対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じながら、薬剤師・看護師・ドクターから分からない事など、対応をするにあたりアドバイス・指導を頂き取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々にお話をして、不安や、意向を聞き、聞いた事は職員間で共有し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安が少しでも取れるように細かく聞きお答えをできるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要したことを最優先に考えケアを行っていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様1人1人にできる事を行ってもらい、共に過ごしやすい安心した環境を作れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで近くでのお話ができないが、ガラス越しでお話をし、両方の不安がとれるように行っている。また、お手紙・お電話の対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や、電話などきた際は、ご本人様とお話をし、してもらおうようにしている。各居室にてボードを置き手紙やハガキ、写真など飾っている。		「仕事があつてなかなか時間につくれない」「帰宅願望が強い」といった家族、利用者本人の状況に合わせてコロナ禍でできることとして電話や手紙での支援に努めています。また以前の生活が続くよう、例えば商売をやっていた人には計算ドリルを提供しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい人や、共通の話題がある人たちを近くに、1人1人にならないように職員が間に入り対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後ご家族様より希望などあれば対応をしている。契約終了時は相談。支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人にあったケア、対応を心がけているが、できていない所もあると思う。	「こう言っていました」「この事で怒ってました」と職員から挙がるほか、居室で管理者がマンツーマンで話を聴くこともあります。メイクする人が1名、下地メイク程度なら他にも居て、メイクキッドを買いに職員が走ることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで行ってきた事ができなかつたりしている方は少しずつできるように声掛け対応を行っている。職員間で把握共有できるように職員が行などで話し合いをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人あった対応。その時どうしたいか傾聴を行い柔軟に対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にあったケアをする為に職員と意見の共有し行い、記録に残し統一できるようにしている。ケアマネとも共有をしケアプランにし実践し対応をしている。	介護支援専門員は法人内の他施設から週1回程来所しており、情報共有を図ったうえで介護計画書を作成するに至っています。コロナ禍で実践者研修の開催も滞っているものの、事業所としては計画作成担当者の養成を熱望しています。	本年度法改正があり、介護支援専門員兼計画作成担当者が常勤であることが改めて知らしめられていますので、一度静岡市に現状でよいか確認することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の変化を見逃さないように記録に残し共有できるようにしている。行う時はご家族様にも相談をし、職員間で共有し実践し再度ご家族様にご報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時にでたニーズに対し対応できている事とできていない事が現状見られるので、取り組めるように今後していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように日々楽しめるように考えて対応をしているができていない所もある。コロナ禍にて狭まれている部分がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での診察以外でも健診なども行えるようにしている。ご家族様の依頼があればすぐに対応ができるよう行っている。	月2回協力医の訪問診療があります。立ち会いは管理者、介護支援専門員、主任のいずれかが担当、「往診記録」に状況を残し、家族には電話で報告しています。家族は仕事や高齢を理由として「できない」ため、眼科などの専門医は職員が通院介助をおこなっています。	10(6)に重なりますが、個別報告を現状より丁寧にする事で「医療報告」も書面で家族に届くことを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に対してケアについてのアドバイスをきケアに繋げるよう行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の負担にならないように対応を行っている。退院時は病院との連携を図り情報交換を行っている。情報に対しては連携がとれるように往診・薬剤師・訪看にも報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、施設では看取りは行っていない。重度化に対しては、往診・ドクター訪看・施設と話し合いの中でご家族様の意向なども聞き、ご本人様にとって良いケアができるように支援を行っている。	「重度化における介護の指針」に基づき説明する際に「看取りはおこなわない」ことを家族と合意形成できています。看取りがないことで選ばれないことも間々ありますが、事業所としては他の魅力を発揮していきたいとして、現状も103歳のケアにあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の利用者様の変化を見逃さないように早めの対応を行い往診ドクターに報告を行っている。職員に対し現状訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、対応ができるようにしている。施設長の方が細目に消防署・市役所に確認・相談を行っている。地域の協力については、書面でサインを頂いているが、コロナ禍にて地域を交え訓練は行えていない。	年2回の法定訓練については「7月実施予定が8月となった」ものの、地震から火災の夜間想定で実施、「(現状の、利用者の身体状態では)女性だと間に合わない」課題があるため12月予定の訓練も同じメニューでおこなうこととしています。	次の4点への取組みを期待します。①台風被害を想定した机上シミュレーション確認(どういう準備、動きをするか等) ②新人の初動確認 ③携帯メールの配信の改良 ④感染症を含むBCPの策定

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者様に聞かれたくない事がある場合は居室などで、一対一にてお話をしたりしている。利用者様より個々の相談がある場合もその都度対応を行っている。	入居前に社会的ポジションが高かった人は今でも気位が高いため、他の人に気取られないように対応を工夫していますが、総じて声かけなどのアプローチから表情の変化や応答を確認して職員間で共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の「今」を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている所と、できていない所が現状ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の意向を聞いたり、ご本人様を選ぶようにしている。こちらで選ぶ事もあり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	色とりどりの料理ができるように工夫をしている。できる方と難しい方もいるので、できる所は行っていただけるようにしている。	夕食は惣菜業者を利用しており、そのメニュー表が朝と昼も届くため参考としていますが、大抵は冷蔵庫の中のもので職員がアレンジしています。眠れない人も「明日おいしいものつくよ」と声をかけることで安眠できる日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増減を気にしながら、ドクターにもアドバイス頂き工夫をしている。水分量に対しては、こちらで把握をし、足りない方などは、OS1、などにて対応している。季節に感じる飲み物も提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアは行っている。歯科往診を受けている利用者様は、歯科往診のアドバイスをもらい対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現状定時誘導も行いながら、時間をみて声掛け対応をしている。排泄パターンをみて見直しができている所と、できていない所が現状ある。	車いすが必要な人は5名となり、内1名は安全確保のために職員2名での介助としており、「できるだけトイレで」を励行しています。排泄物でイタズラする症状がある人は必ず職員が後を確認して衛生に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が3日間出していない時は、そこから薬で対応を行っている。飲食物の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤など使ったり目・匂いを楽しめるようにしている。1人1人に合わせた温度調整も行っている。現状曜日の決めてしまっている所があるが、利用者様の拒否・意向があれば変更している。	週2日を清潔の目安としています。浴槽の湯も一人ひとり替えているため、好みの浴剤を選べる状況にあるものの、現在は職員が決めていきます。拒否が強い人はなく、熱め・温め・長くゆったり・烏の行水とそれぞれの好みに対応しています。	多少判断がつかなくなっているも、浴剤を本人が選ぶ機会をつくることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるように声掛けに注意している。その人その人の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認するようにしている。共有できるように職員には、必ず確認した後サインをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状出来ている事と、できていない事があり、気分転換などはできていないと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にて、現状、畑や日光浴、個々にドライブなどしか外出支援ができていない。	降りないドライブや畑の西瓜を眺め外気浴をする程度の外出支援となっていますが、その分スイカ割りに興じたり、プランターの苺を愛でつつ会話を弾ませています。また開設時に植えた果樹が7年という月日を経て育ち、サクランボや石榴も実って彩りを添えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の方は、ご家族様、施設で行っている。利用者様によっては、ご家族様の面会時に確認等行っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、お手紙などの支援は行っている。忘れないようにお手紙などはお部屋に飾りいつでも見れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にリスクがないように片付けを行うようにしている。季節を感じていただけるように、職員の子供さんが作って下さった物を飾りつけをしている。	コロナ対策として空気清浄器を各ユニットに購入するとともに掃除に力を入れています。感染症を経験したことや市役所の指導から、「コロナは床よりもテーブル」といった掃除のコツを心得ており、コンタクトポイントや洗面台は重点的に取組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり、雑誌を読まれたり、お話ができるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家にいた時となるべく同じように配置したり家で使っていた物や写真など持参して頂き工夫をしている。	車いすを利用するとなれば動線確保が必要なためベッドの移動をおこない、「常夜灯ではイヤ」という利用者のために別の照明を用意したり、ベッド柵にあたって表皮剥離が起きそうのためカバーを取り付けたりと、こまめに状態変化に対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所など分かるようにしたり、声掛けなどし、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗(2階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和3年8月30日	評価結果市町村受理日	令和3年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2294201575-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にて、施設内での畑での野菜の収穫や、苗木の果物の収穫は、今年は、初めてさくらんぼができ、職員はイチゴに挑戦しました。防災には、消防署からのアドバイスにてベンチを購入しました。地域の方々の休憩場所になり寄ってくださるようになりました。コロナ禍が落ち着いてきたら、利用者様と、地域の方々が交流の場になればと思っています。今年力を入れた事に対しては感染予防に力をいれました。ホワイトボードを購入し利用者様に今のこのコロナを理解して頂けるように工夫をしたり、各場所工夫を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に植えた果樹が7年という月日を経て育ち、サクランボや柿、石榴も実り、リンゴは来年は大きく実りそうに楽しみの一つになっており、本年度はプランターでの苺栽培にもチャレンジしています。管理者自ら入居情報のチラシを制作、地域包括支援センターとはコロナ禍であっても電話などでやりとりが継続され、一時預かりにも協力しています。眠れない人も「明日おいしいものつくよ」と声をかけることで安眠できていて、用宗に住む職員がシラスを調達したり、管理者が「タルトマスターの資格取得後は利用者と一緒につくりたい」などとして、食への楽しみが豊富な事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍にて難しかったが、施設長・主任から職員へ理念を共有できるよう、月間目標を行う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は今はしていないが、理美容・往診などで少しだが交流をとれるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、医療関係者とはしか交流がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表者が書面にて報告をしている。意見からできる事は少しずつ行えるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者のみ連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月にお会議の中で必ず話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者以外は学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長が行っている。入所後の不安・疑問点については、施設長・主任・ケアマネより説明をさせて頂き理解・納得頂けるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面にて行ったり、常日頃からご家族様とは連絡を取り合い、代表者が外部へと運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議など、個々職員より、話を聞き、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	とても努力して下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は今ではできないが、内部研修などは毎月行っている。1人1人の力量は理解されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状今はできていない。サービスの向上の上医療関係者からアドバイスなどを頂き個別の対応として取り組みはしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	課題は多いが利用者様が安心して生活ができるよう努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努める土努力はしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちら側の思いと、ご本人の捉え方が必ずしも相違ではないため、観察を行ったうえで検討しながら努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	そのつもりで御家族様にこまめに連絡を取り絆を大切にし関係性を築いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かなえてあげたいけど、現状コロナ禍で支援が難しい所がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会議の度にいつも議題にて職員間でも話合いをしているが、利用者様によっては、自ら孤立したい方もいるのでそこは、また本人にとっての支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部の御家族様で今現在も協力して下さっている方もいられる。現状直接お会いできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前できて事が現状できていない事と、新しく把握に努め対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現場厳しい中でも、職員に説明し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りに必ず全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には必ず記入に残しているが、共有できるように、会議で話し合いをしたり、理解できていない職員に対しては個別に説明をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の生まれたニーズに対して、話し合い、相談を行い柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様を外部へ連れて行く事は出来ていないが、受診に行かれたり、その時の対応にてドライブ、散歩に行かれたりして支援はしているが、コロナ禍で現状支援が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な場合は、感染対策をしながら受診対応をしている。往診に重点をおいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを変更し、よりよい対応ができるよう行っている現状である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者が常に行動をし、関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状看取りは行っていない。代表者、ケアマネとも話し合いの中で、できる事を行なうように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行なえていない。仕事の中で少しずつ身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では、防災訓練を行なっている。以前は地域の方々に書面を頂いているので、ご理解はして下さっていると思うが、地域の方々と焦れての訓練は現状できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	完全ではないが、失礼のない様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや、希望は表わされているが、全ての自己決定ができていない現状である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出などができていない現状で、できる範囲で希望にそって支援はしているが、全ての利用者様にできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由にメイクなどもして頂いている。こだわりなども受け入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は、自ら行って頂いている。。食事に対してはできていると思う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	工夫しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず行なっている。指導も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンについては、職員が理解し自尿、自便に有する時間の確保を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や、ココア等取り入れ、排便につながる工夫を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間については、決定をしまっているが、必要に応じて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間で話し合いをし、利用者様の年齢、体調に応じて無理のないように休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最も必要な事柄なので往診後、往診結果の内容は表にして職員一人一人が理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内での取り組みは行っているが、現状難しい所もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出支援ができていない。本来に施設内でできる範囲では話し合いの中で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状お金の管理は、御家族様・施設で行っている。本人の訴えによって、安心して頂くように説明を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前外部評価にてアドバイスして頂いた事を参考にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えなどで、工夫したり、利用者様の自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様のすすめで下さる物を設置したり、今まで使用されていた物を入所時に持参されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故がおきないように安全に暮らせるように環境づくりを工夫している。		